

原稿校了後の前兆変化について

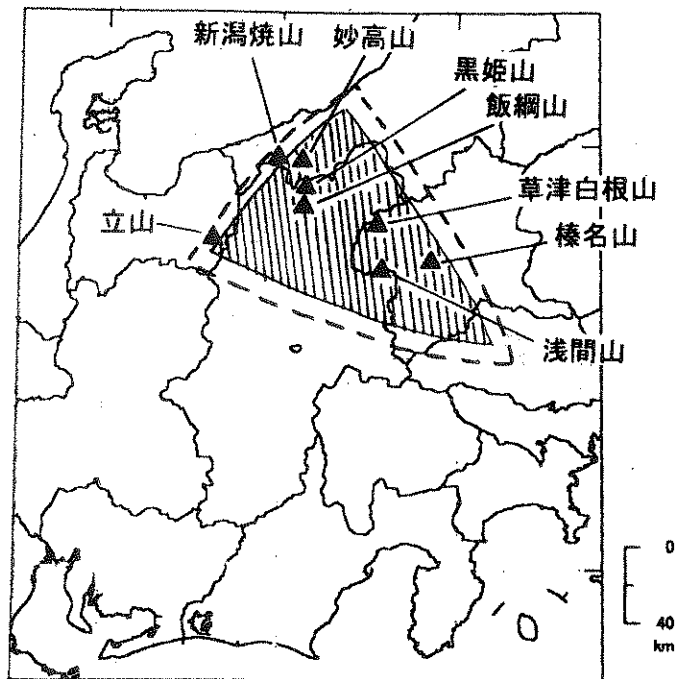
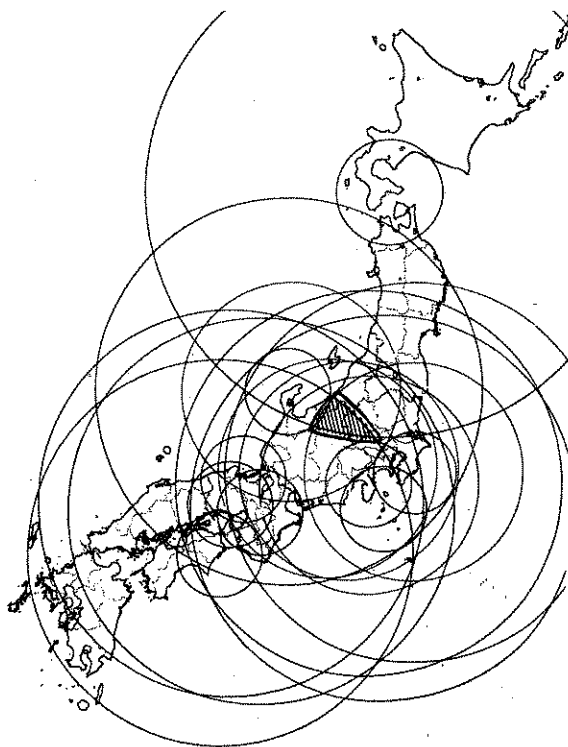
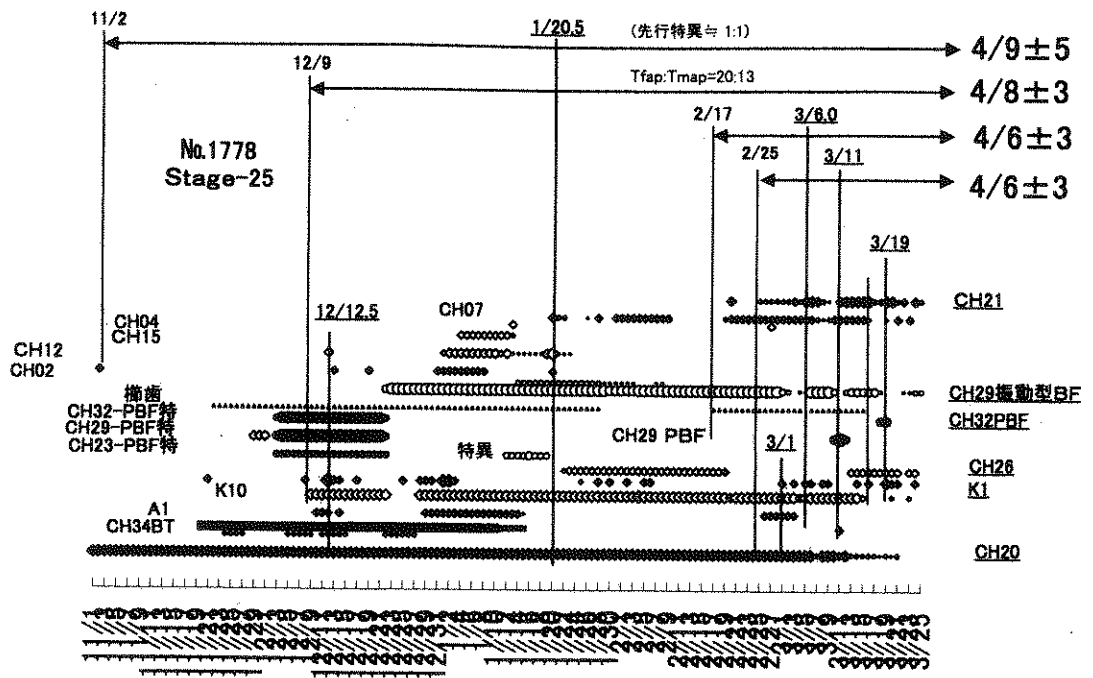
八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期前兆続報 前兆継続 最も早い場合の可能性 = 4月7日 ± 2

No.1778長期継続特殊前兆の続報です。

前情報段階では、最も早い場合の発生の可能性として、03月23日 ± 1 が否定困難でした。実際3/23~24の前兆状況はCH26の弱い特異前兆が継続するだけで、一時他の前兆は静穏化しておりました。

大型地殻地震の場合は、余震が多いことから、前兆の一部が完全終息しない過去例があることから、様子を見ておりました。しかし3/24午後からCH21特異、CH29振動型BF、高知観測点K1, K10等に弱い前兆が再出現しました。このことから数日内の発生の可能性は否定できません。現在最も早い場合の発生時期は表題のとおり4月7日 ± 2の可能性有。今後の観測で検証を進め続報予定。前兆の終息を確認予定。



- ◆推定領域: 上図 斜線領域内付近
- ◆推定規模: M7.8 ± 0.5 震源浅い陸域地殻地震 火山近傍領域の可能性有
- ◆推定時期: 現状最も早い場合 = 4月7日 ± 2 今後の観測で修正の可能性も有
- ◇推定発生時刻: 午前9時30分 ± 1時間 (又は午後4時 ± 3時間)